



胆沢ダム(ロックフィル堤体)で、 山岳救助を想定した訓練が行われます ～ダムを活用したこのような訓練は岩手県内では初～

奥州金ヶ崎行政事務組合消防本部では、山岳地域における消防救助技術、災害対応能力の向上及び関係機関との情報の共有化並びに円滑な連携を確認し、要救助者の救出を早期に完結することを目的として、胆沢ダムのロックフィル堤体下流面を活用して、下記のとおり救助訓練を実施します。

なお、ダムを活用したこのような訓練は岩手県内では初めてです。

日時: 令和3年10月28日(木) 9時30分から11時30分

場所: 奥州市胆沢若柳字横岳前山6番
胆沢ダム堤体下流面(右岸側)

訓練人員: 25名

※天候等により中止する場合があります。



《発表記者會: 岩手県政記者クラブ、奥州市記者クラブ》

<問い合わせ先>

奥州金ヶ崎行政事務組合消防本部
〒023-0854 奥州市水沢大鐘町二丁目16番地

消防救急課 ワタナベ ヒロシ 渡邊 博
(代表TEL: 0197-24-7211)

国土交通省 東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所
〒020-0123 盛岡市下厨川字四十四田1番地

副所長 カタノ マサアキ 片野 正章 (内線204)
(代表TEL: 019-643-7831)

北上川ダム統合管理事務所 胆沢ダム管理支所
〒023-0403 奥州市胆沢若柳字横岳前山6

支所長 オハラ アキヒコ 小原 昭彦 (内線6121)
(代表TEL: 0197-49-2981)

胆沢ダム救助訓練実施要領（抜粋）

1 訓練内容

(1) 想定

奥州湖まつりで胆沢ダム堤体登り体験をしていた観光客3名がダム堤体中腹から滑落、2名（傷病者A、CのうちAは歩行可）を水沢消防署救助隊が救出し救急隊が引継ぎ病院搬送する。もう1名（傷病者B）を岩手県防災航空隊が救出し胆沢分署ヘリポートにて胆沢救急隊に引継ぐもの。

(2) 活動内容

ア 奥州金ヶ崎行政事務組合水沢消防署、胆沢分署

(ア) 指揮隊

- ・関係機関の出動要請
- ・情報収集
- ・現場指揮本部設定

(イ) 救助隊

- ・傷病者A、Cの救助

(ウ) 消防隊

救助隊の補助

(エ) 救急隊

- ・傷病者の観察及び搬送

(オ) 胆沢分署

- ・防災航空隊から傷病者Bを胆沢救急隊へ（胆沢分署ヘリポート）

イ 岩手県防災航空隊

- ・上空偵察
- ・傷病者Bのピックアップ救助
- ・胆沢救急隊へ傷病者Bの引き継ぎ（胆沢分署ヘリポート）

ウ 岩手県央指令センター

- ・訓練指令
- ・関係機関の出動連絡

2 訓練行程

別紙1「胆沢ダム救助訓練各隊行程表」のとおり

胆沢ダム救助訓練各隊行程表

部隊 時刻	指揮隊	救助隊	消防隊	救急隊	ヘリポート 安全管理	航空隊	県央指令センター
9 : 00	移動開始				—	—	—
9 : 30	—			—	—	—	—
会場到着	装備等点検、待機完了			待機完了	—	—	—
9 : 50	出動		出動	出動	出動	—	出動指令
訓練開始	活動	活動	活動	活動	活動		活動
11 : 30	訓練終了	訓練終了	訓練終了	訓練完了	訓練終了	帰投	訓練終了

